

# 長野県史 通史編

第五卷  
近世二卷

## 目 次

口 絵  
緒 言  
例 言

### 第一章 諸領主の定着と支配

#### 第一節 信濃諸藩の固定

##### 一 信濃一国の支配へ

国境をこえた所領の減少 元禄の国絵図と郷帳  
『土芥寇讐記』にみる信濃大名

##### 二 元禄以後の大名移動

東信諸領の変化 南信諸領の推移 松本藩主の交替 北信諸領の固定

##### 三 新旧領政の継続

## 幕府領の増大 新旧藩政の持続

## 第二節 幕府権力下の諸藩

三九

## 一 幕法の浸透

三九

人別改めと戸口調査 鉄砲改めと馬改め 酒造米高と酒運上 助郷の制度化

五人組帳前書

三九

## 二 藩法と領域支配

三九

領内法度の発布 藩法の確立 藩法適用の実態 組分け支配 地方知行の後退

三九

## 第二章 小百姓の村へ

三九

## 第一節 年貢負担の固定

三九

## 一 幕府領の石代納改革

三九

享保改革と定免制 石代納仕法の改革 石代納の実態 樽木成村の石代納  
石代値段引きあげ策と反対訴願

三九

## 二 諸領の年貢

三九

お情け竿と村高 定免制の実施 藩財政の窮乏と年貢 松代藩の月割上納制  
年貢金仕送りと新法の破綻 農民の成長と年貢

三九

## 第三節 山と水をめぐる村

三九

## 一 小百姓の山野へ

三九

入会山の利用 入会争論と小百姓 総百姓割山

## 二 水と村民結合

一〇

新田開発と水論 新たな水利秩序の形成 施設分水から番水へ  
溜池の新設と新配水慣行 五郎兵衛新田村の自普請 御普請の抑制策

## 三 小百姓の農業經營

一四

小百姓の經營 農具の進歩 稲の品種改良

## 第三節

### 開発と災害

一毛

#### 一 新田開発策と村の慣行

小百姓の開発 松本平の開発計画 切添えの摘發

安永の新田総検地と農民

#### 二 災害の拡大

一七

元禄の飢饉 天竜川の未満水 天竜川の石堤 享保の飢饉 千曲川の戊の満水  
災害の復旧・影響

## 第四節

### 小百姓の村の確立

一九

#### 一 村民代表の村役人

村役人の選出 村の組分け 村役人を見る目 村方三役の役割

#### 二 村入用帳

二〇

村入用帳の成立 村入用帳の実態

## 三 身分差別の展開

二二

元禄年間の「かわた」一件 「えた」部落の制度化 非人の扱い  
 その他の被差別者 抱百姓の再生産

### 第三章 文化と庶民生活 ······

#### 第一節 『信府統記』と『四隣譚敷』 ······ 三六

##### 一 藩学芸と記録作成 ······ 三六

##### 前例の記録化 『信府統記』 ······ 三六

##### 二 武士の学芸と教化策 ······ 三三

##### 士大夫の学芸 武士の官僚化 生類憐み令と教化策 教諭書・訓戒

##### 三 村有力者の学芸と伝承の文字化 ······ 二九

##### 村役人の記録作成 文書保管と文字のひろがり 村有力者の文雅 俳諧・日記・蹴鞠 『四隣譚敷』 有力村民の前例知識と藩政

#### 第二節 村の風儀と家 ······ 二五

##### 一 村の伝統と倫理 ······ 二五

##### 村の慣習法 村定め 村の倫理 村法と領主法

##### 二 家訓と家族道徳 ······ 二六

##### 遺書と家訓 家内紛争と対策 家制度と女性 寺旦制と家 家永続の願い

第三節 村の神々	二九
一 神々の勧請	二九
村で祀る神々 神々の分類と勧請神	二九
二 村の神祭祀	二九
重層的な祭祀構造 年中行事からみた神々の祭り 堂祭祀と別當	二九
第四節 善光寺と諏訪神社	三一
一 善光寺と諏訪神社	三一
善光寺の再建と信仰	三一
善光寺再建 出開帳と勧化 善光寺信仰のひろまり 大勧進と大本願	三一
善光寺参りさまざま	三一
二 諏訪信仰の伝統	三〇
近世の諏訪社 諏訪上社の祭り 諏訪下社の祭り 御頭郷 御柱祭り	三〇
諏訪信仰のない手	三〇
第五節 世間との交渉	三一
一 旅人からの文化	三一
文雅の旅人 商人・職人・芸人・御師 参詣者とねだり	三一
二 町の役割	三五
城下町への江戸の文物 宿場町と歓楽街 町から村へ	三五
三 旅の経験と情報入手	三五

## 第四章 産業の発達と貨幣

### 第一節 農業の発達

一 商品作物の展開

煙草 紙 麻 菜種と木綿

### 二 農業の諸相

高冷地の作物 猪垣と防風林 水害地の割地慣行

### 第二節 さまざまな生業

#### 一 育成林業の成立

木曾山の享保林政改革 御林の植林 伊勢神宮遷宮用材

#### 二 山村のかせぎ

榑木山仕出し 木地屋 木櫛と檜笠 山村の諸生業

#### 三 農村の現金かせぎ

川中島村々の諸かせぎ 在村の諸職人 出奉公人 江戸かせぎ  
高遠の石工 水車かせぎ

### 第三節 流通の変化

一 町のひろがり	四五二
町人口の増加　　借家層の増加　　町統き地の発達	
二 商圏の変化	四六四
町方と在方の商業紛争　　特權町人の動搖　　定期市の再編　　市場の変化	
木綿・布・紬尺幅の統一　　仲間組織の結成	
三 中馬と通船	四六〇
明和の中馬裁許　　通船と渡し船・橋　　ボッカ	
第四節 貨幣流通と土地売買	四七四
一 貨幣流通	四七四
貨幣価値の変動　　金利の変遷　　米価と諸物価　　信用通貨の展開　　質屋	
無尽・講	
二 土地売買と地主	四八四
土地売買と質入れの諸相　　人売買の後退　　役売買・株売買　　潰れ百姓	
地主の成長　　地主經營	
第五章 藩政の変化と百姓一揆	四五一
第一節 村秩序の動搖と災害	四五一
村秩序の動搖	
一 村秩序の動搖	

## 抱百姓の成長 村役人の変化 村方騒動の展開

## 二 災害のひろがり

五四

疫癪・時疫 小諸領の災害 地震と諸災害 火事と火消し 災害の救恤

五五

## 第二節 諸藩の財政改革と一揆

五六

## 一 上田藩宝曆騒動

五六

全藩惣百姓一揆の登場 上田藩宝曆騒動の背景 騒動の経過 露呈された諸矛盾  
残存する騒動記録 首謀者・指導者群像

## 二 諸藩領の一揆

五三

松代藩の田村騒動 恩田木工の改革 田野口領一揆 事件の経過と結末  
飯田藩千人講騒動 藩政の変質

## 第三節 幕府の新法と一揆

六八

## 一 幕府の新法と訴願

六八

幕府領の年貢増徴策 切開き・切添え・立て出し改め 百姓山の検地と課税  
冥加・運上金の徴収 助郷訴願と伝馬騒動

## 二 安永中野騒動

六八

廻米令と広域訴願 年貢皆済納期の繰り上げ令 騒動の勃発と経過  
首謀者藤助と治部左衛門 飛驒騒動と中野騒動

## 第四節 信濃の地域性

六三

一 村民活動の広域化

領域をこえて 一国訴願 一国への目

三三

二 信濃の地域性

信濃人としての主張 山の民 東国信濃と交流域 信濃の境域  
内の区分と外からの目 関東との区分 信濃文化の形成

四〇

付録 所領分布図

度量衡・通貨表

あとがき

執筆者名簿

近世担当編纂委員名簿

長野県史編纂関係者名簿

口絵解説

写真・図・表目次